# 東圓寺だより

平成21年　年末号

光陰矢の如しと言いますが、今年も残す所あと僅かになりました。師走を迎えて何かと気忙しい毎日を送っていることと思います。檀信徒の皆様には、お変わりもなく、ご健勝のこととお喜び申し上げます。富士山文化遺産に向け、忍野八海周辺の清掃活動を続けて、三年が立ちました。その間、暑い中、寒い中、清掃活動を続けてきた、東円寺一隅会員や檀徒総代、また、活動に賛同して、参加して下さった方々に対して、衷心より感謝申し上げます。来年も毎月八日を中心に清掃活動を続けますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

## 東圓寺年中行事

平成２２年上半期

元　旦　　初　詣

1月１６日　　小正月

昔は檀家の女子が団子や米を持って
お参りに来る日でした

**1月２８日**　　初不動交通安全祈願祭

開運・厄除け等護摩祈祷　午後２時
厄年の方を初め多くの皆様のお参りを
お待ちしております

3月２１日　　春彼岸

戦没者慰霊祭　　午前１０時

**4月２４日**　　子育て地蔵尊縁日

無病息災子育祈願　　午前１１時
オカリナ演奏会・チャリティーバザーを
開催しています

毎月８日が八海・新名庄川清掃の日です
多くの皆様のご協力をお願いします

## お会式が盛大に行われました。

十一月三日、東円寺の最大行事である、お会式が盛大に行われました。今年はおよそ二百三十名程の檀信徒の皆様が参列されました。
年に一度ですが、十名の天台宗の僧侶によって、供養のお経が唱えられました。
大変寒い日でしたが、ご先祖様の心は温かかったことと思います。

お会式の様子

## 忍草のお宝（新名庄川の桜並木）を子孫に残しましょう

八月に清掃活動の呼びかけチラシを新聞の折り込みに入れました。その時に紹介しましたが、忍草の新名庄川（上村橋から大橋の間）が、平成十九年に、国土交通省選定「魅力ある関東のいい川づくりコンテスト」の『景観部門』で、第二位という栄誉を得ました。一位は長野県の信濃川水系女鳥羽川と言う川で、三位が東京の隅田川でした。関東の百以上ある川の中で、ベスト三に入れたのすばらしいことです。

また、過日の山日新聞の「山梨の桜の名所五十選」の中にも、新名庄川の桜が選ばれていました。郡内では、新倉浅間山の桜、河口湖畔の桜、富士山麓の富士桜、そして、新名庄川の桜、の四カ所でした。

特に、去年と今年は新名庄川の桜が見事でした。そのわけは、三年前の冬に、区会の方々が何日かかけて、桜の病気である、テングス病に犯されている箇所を切り落としたからです。桜の綺麗な並木は何時までも続きません。しばらく放っておくとたちまちテングス病に犯されて、花が咲かなくなってしまします。二年か三年に一度はこのテングス病にかかった枝を切り、焼却しなければなりません。新名庄川の桜も病気にかかっている枝が目立ち始めました。この冬、枝切りの作業をしたいと思っています。

また、新聞のチラシに入れますので、その時は多くの方々のご協力をお願いします。

版木実物　10cm×30cm

朝日浅間宮の別当東圓寺で大我講中に配札された、八大竜王のお守り札です。
版木　天保十四年造　東圓寺所蔵


編集・発行
天台宗　東圓寺
電　話：84－4114
Ｆａｘ：84－4104

## 観音堂の再建を発願しました

東円寺には文保元年（1317年）「丹後国住人、運慶法印曾孫石見靜存」と言う仏師により造られた、村指定重文の聖観音菩薩像があります。忍草浅間神社（忍草朝日浅間宮）の国指定重文の三神像の作者と同じ仏師により造られました。幕末までは浅間神社の境内の観音堂に安置されていましたが、明治の神仏分離令により、観音像は東円寺に遷座、観音堂は社務所に変わりました。以来、百四十余年間、観音様には鎮座するお堂がありませんでした。この度、2017年が聖観音菩薩造像700年にあたりますので、記念事業として観音堂の再建を発願しました。下記により浄財の寄進を受け付けています。多くの方のご理解とご賛同をお願いします。

記

1，浄財受付期間　　平成21年10月より平成28年9月まで（8年間）
2，建設費用　　3，000万円
3，浄財寄進方法　　＊写経による浄財（志納金　1，000円）
　　＊篤志寄付（10，000円以上）

皆さんの写経は、観音様の須弥壇の中に永久保存されます。また、篤志寄付者の芳名は観音堂の中に刻名して永久保存します。

## 比叡山先祖供養の旅　団参員募集

来年の団参の日程が決まりました。4月17日（土）ー19日（月）に行います。細かな旅程はこれから富士急トラベルの渡辺支店長さんと計画していきますが、きっと思い出に残る、供養の旅が出来ると思います。およその旅程です。

1日目　比叡山到着後先祖供養
2日目　午前中、比叡山参拝　午後、京都市内の門跡寺院（妙法院門跡・青蓮院門跡）の参拝　奈良市内のホテル泊
＊門跡寺院とは皇族が住職をする寺のことです。青蓮院門跡は現在、東伏見宮慈晃様が住職をしています。二か寺とも普段はあまり参拝できないのでこの機会に訪れましょう。
3日目　午前中、古都奈良の寺院参拝（唐招提寺・東大寺）　午後、帰郷

**申し込み締め切り**　平成22年2月28日（日）団　員 40名（定員になり次第締め切ります）
**旅行費用**　およそ50，000円ー52，000円
**申込先**　東円寺または檀徒総代
予納金一人10，000円を添えて申し込んで下さい

### 寺庭のつぶやき

### 東円寺のホームページを作っています

この度、長年の懸案でありました、ホームページが間もなく出来あがります。東円寺の情報だけでなく、忍草に関する様々なことも紹介したいと思っています。また、既刊の東円寺便りも見ることが出来ます。
是非ご覧になって、ご意見やアドバイスをお寄せ下さい。
http://touenji.jp/
または、　東円寺　で検索して下さい

## 忍野八海誕生の歴史

忍野八海は、富士山の北東、忍野村忍草にある八つの池（出口池、お釜池、底抜池、銚子池、湧池、鏡池、菖蒲池）の総称で、富士山に降った雪や雨が、数十年かけて伏流水となって湧きだしたものです。古代、ここ忍野村一帯は、宇津湖とよばれた大きな湖でした。今から１２００年前、延暦十九年（８００年）の大噴火による溶岩流で堰き止められた上流は、現在の山中湖となり、下流の宇津湖は水が干上がって、湖底の湧水だけが残りました。近年発掘された平安時代の住居跡、笹見原遺跡から神事に使われたと思われる『水神』と墨書された土器が見つかりました。このことから、平安時代よりこれらの湧水は神事や富士修験の禊ぎ池として、利用されてきたことが判ります。幕末、江戸八百八講と言われるほど富士講は隆盛しました。その頃、天保の飢饉が日本中を襲いました。特に、高冷地である忍草は大打撃を受けます。毎日のように人が亡くなりました。天保六年から八年の三年間だけで、当時の人口のおよそ三割にあたる、１４０人以上の人が死にました。（東円寺過去帳に記載されています）このことを伝え聞いた市川大門の長百姓、大寄友右衛門は飢饉に苦しむ忍草の民を救うために、私財を投じて一大事業を興しました。忍草の湧水を富士講（大我講）の禊ぎ池とすることでした。所謂、宗教を利用した、村興し事業です。忍草にある沢山の湧水の中から、北極星と北斗七星の形になるように、八つの池を選び、それぞれの池に八大竜王を祀り、仏教・道教・陰陽道の教えに基づいて、『富士元根八湖霊場』として再興しました。おかげで多くの村人の命が救われました。再興以後は、忍野八海（元八湖霊場）で身を清め、忍草朝日浅間宮に参詣し、東円寺で入山許可のご印紋を受けて登山するという、元八湖信仰（大我講）が栄えました。江戸時代の富士登山は、入山料が必要でした。やがて、忍野八海（元八湖霊場）は二十世紀初めに富士講の衰退と共に世間から忘れられていきました。近年、写真家の岡田紅陽が忍草に別荘を構えて、多くの作品を世界中に紹介し、忍野八海は富士山の撮影地として、広く知られるようになりました。また、１９８３年４月には、忍野八海（湧池）の水が、スペースシャトル・チャレンジャーに搭載されて、宇宙で人工雪の実験に使われました。忍野八海が北斗七星の形をしているので、宇宙に迎えられたのかも知れません。

元八湖霊場再興の絵図（版木）　天保14年（1843年）　大我講作成　東円寺蔵

版木実物　35cm×48cm

東圓寺で配札された入山許可証です。
版木　天保十四年造
東圓寺所蔵

版木実物
10cm×15cm